

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第33回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

“よく老いる”ための血管生物学のすすめ —歯周病は血管病である—

松下 健二 先生

国立長寿医療センター研究所・口腔疾患研究部・部長

平成20年3月28日 (金) 16:00～17:00

歯学部A1セミナー室 (基礎棟1階)

抄録: “人は血管とともに老いる”とよく言われるが、加齢とともに動脈硬化は進行し、個体・臓器・組織の老化を促進する。種々の生活習慣病は動脈硬化を加速し、心筋梗塞や脳卒中といった全身性血管病のリスクを飛躍的に高める。したがって、血管の健康を維持することは、健康寿命の延伸のために必須である。一方、歯周病も生活習慣病としての側面を持ち、加齢がその発症と進行に関与している可能性がある。特に、動脈硬化は歯周組織の再生力を低下させるとともに、歯周病菌に対する抵抗力を減弱させる。糖尿病、高血圧などの生活習慣病は血管を強く障害する。さらに、歯周病細菌は血管炎を惹起するとともに血栓傾向を高める。歯周病は、まさに血管を病の座とする血管病である。

本セミナーでは、老化と疾病の関係、特に歯周病との関係を血管生物学的、細菌学的、免疫学的観点から総合的に吟味し、“よく老いる”ための口腔と血管の健康の考え方について解説したい。

参考文献: Matsushita K *et al.* Cell 115:139-150, 2003; Matsushita K *et al.* J Periodontal Res 41:148-156, 2006; Inomata M *et al.* Microbes Infect 9: 1500-1506, 2007; Kanno Y *et al.* Cardiovasc Res 77:221-30, 2008; Into T *et al.* Mol Cell Biol 28:1338-47, 2008.

連絡先: 第33回モデレーター 高田 春比古 (内線 8305)
研究推進企画室長 山本 照子 (内線 8372)
副研究科長 高橋 信博 (内線 8294)

